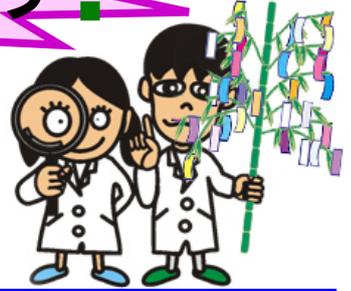


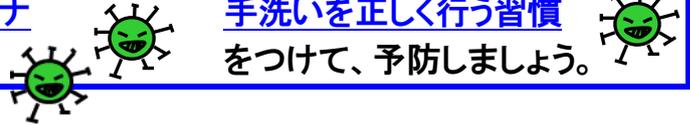
感染症に気をつけよう!

2015年【7月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況	説明
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	流行 → 横ばい	4~7歳の報告が多いです。かぜに似た症状ですが、合併症もみられ注意が必要です。早目に受診しましょう。【3月号】
夏に流行する感染症	やや流行 → やや増加	咽頭結膜熱（プール熱）【チラシ】 手足口病【8月号】 …… などは、例年、夏がピークです。 ヘルパンギーナ 手洗いを正しく行う習慣をつけて、予防しましょう。



今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

人から人へも感染

O157(オーイコナナ)など病原性大腸菌に汚染された物を口にすることが原因です。生肉による感染が話題になりましたが、食物から以外に、
感染した人から人へもうつります。

症状は、腹痛・下痢・血便などです。乳幼児や高齢者では重症になりやすく、命に関わるケースもあります。



家庭でも手洗い・清潔

市内では5月に4件、6月に6件の報告があり、家族内で感染した例もみられました。家庭内での感染を防ぐには、手洗いが重要です。

また、下痢の症状がある人は、他の人とタオルを別にしましょう。トイレはいつも清潔にして、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチ等、手でさわる所は、特にていねいに掃除しましょう。



夏に要注意

これから夏にかけて例年報告が増えます。調理する時の食材や器具の加熱・洗浄にも十分に注意して、予防しましょう。

もし症状が出てしまったら、自分の判断で下痢止め等の薬を飲まないで、早目に受診してください。

